

編集後記

巻頭言にもありますように、今年度は大学院 GP の最終年度となりました。心理相談ウィークの開催や臨床現場で活躍する卒業生との事例検討合宿、海外の大学との学術交流、地域実践に関するシンポジウムの開催など、様々な活動を盛り込んだプログラムですが、本年度で一つの区切りとなります。

そもそも臨床心理士の職能は「査定」「面接」「地域援助」「研究」の4つに大別され、これら4種の業務すべてに対して研鑽を積むことが求められていますが、これまでの大学院教育における「地域援助」の位置づけは、決して高いものではなかったように思います。今回のプログラムの実施にあたって、臨床心理士に求められる「地域実践」の具体的なありようとは何かについてについて深く省みることとなりました。また、大学院教育が、地域における心理臨床的支援活動に対して、どのような役割を果たせるか、また果たしていくべきかというモデルを構築するうえで、足がかりを得ることができたと思います。

GP のプログラムは本年度で終了いたしますが、もちろん、これらの活動の多くは今後も心理相談室の地域実践部を中心に継続・発展していくこととなります。日々の相談活動も含めた、これからの地道な活動によって、この3年間の取り組みがどのように生かされるかが決まってくるのだと思います。今度とも皆様方のご支援ご協力のもと、よりいっそう充実した相談室となるよう精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

(奥田紗史美)

編集委員

國吉 知子・小林 哲郎・水田 一郎・石谷 真一・奥田紗史美・

児玉 佳子・桑山久仁子・今井 千尋・奈良 晶子・伊藤 園子・中山貴久子

心理相談研究 第11号

2010年3月31日 発行

発行 神戸女学院大学大学院人間科学研究科心理相談室

〒662-8505 西宮市岡田山4-1

TEL/FAX 0798-51-8554

印刷 尼崎印刷株式会社

〒661-0975 尼崎市下坂部3丁目9-20

TEL 06-6494-1122

FAX 06-6495-2360